



《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えをご紹介します。疑問に思っていることなどお手紙でお寄せください。市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)  
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】



① 授業料が安くなる  
現在の授業料135万7千円から54万円程度(国立大学と同程度)まで下がると見込まれています。

② 入学定員(240人)の確保  
近年、受験生の国公立大学志向が高まっているため、科大を目指す学生が増え、入学定員を満たす可能性が大きくなります。

③ 教育力・研究力の向上  
市から大学に運営費が交付され、大学の運営が安定することで、教育力や研究力の向上を図る取り組みのさらなる強化が期待されます。

④ 学生の発想やアイデアがまちづくりに生かされる  
学生が地域のイベントやボランティア活動を企画することや、学生と地域が一体となってまちづくりに参画する拠点「まちなかキャンパス(仮称)」の設置などが期待されています。

⑤ 地域貢献活動の充実  
科大が取り組んできた、小中学生への学習支援などの地域貢献活動がさらに充実することや、科大が設置を検討している「地域連携センター(仮称)」を中心に、これまで以上の貢献活動の展開が望まれています。

## 科技大の公立化…何が変わる？市が負担するお金はどれくらい？

企画部主幹 (公立大学法人化構想担当)  
☎(24)0036 ☎(22)8852 (代表)  
お答えします

**声**  
「広報ちとせ12月号」で千歳科学技術大学の公立化の記事を読みました。公立大学になったら、何が変わるのでしょうか？

**答**  
授業料が安くなるほか、地域貢献活動の充実などが期待されています

**声**  
千歳科学技術大学が公立大学になったら、市は毎年どれくらいのお金を負担することになるのでしょうか。  
《50代男性》

**答**  
新たに国から措置される地方交付税で年間10〜12億円を負担します

公立大学に対して市が負担する費用は2つあり、年間合計で約10億円〜12億円の支出を見込んでいます。

1つは、「運営費交付金」です。これは、公立大学運営に必要な費用のうち、大学の自己収入を差し引いた額を市が毎年度、大学に交付するものです。

もう1つは、「施設設備取替・更新費用積立金」です。これは、将来の校舎の修繕や建替に必要な費用、研究機器などを買い替える費用を市が積み立てておくものです。

一方、毎年度、国から市に交付する「地方交付税」が新たな「地方交付税」が新たに措置されます。市は、公立大学設置後10年間の財務推計をもとに検討した結果、国から措置される地方交付税により、これらの費用を負担していくことが可能と判断しています。

ただし、将来の修繕や建替などには多くの費用がかかるため、市は、科大が保有する「資産」を将来の財政負担への備えとして活用することで、市の財政に大きな影響を及ぼすことなく大学を運営していくことと考えています。

